

まちから、ちから。③6

くらし・まちづくりコーディネーター

ジャーナリスト 齋藤 喜以子



歩いて初めてわかる商店街の魅力! 毎回のイベントは大盛況



人の優しさ・温かさが魅力のレトロな和田商店街

子育て中のママパワーを 商店街の活性化に生かす!

親子で街デビュープロジェクト

(東京都杉並区)



代表の西本則子さん。消費生活アドバイザー。今や公衆トイレでよく見るベビーチェアは、メーカー勤務時代に手がけた仕事

東京メトロ丸ノ内線の「東高田寺駅」を出て南へ10分ほど歩くと、約50店舗が軒を連ね、どこか懐かしさを感じさせる和田商店街がある。かつては厄除けで知られる妙法寺の参道として栄えていたが、店主も常連客も高齢化するにつれ、シャッターを下ろす店が出始めた。一方、商店街の周辺には大型マンションが建ち、子育て世代が入居する。今回は、子育て世代の新住民と商店街をマッチングすることで、核家族化した若い世代の地縁を深めると同時に、商店街の活性化を図る「親子で街デビュープロジェクト」を取り上げる。

地域とのつながりが希薄…

同プロジェクト代表の西本則子さんは、長年、育児用品メーカーで商品企画やマーケティングに携わってきた。しかし、管理職となって仕事のウエイトが増すと、家族との会話もままならない日々疑問を感じて退職。時間に制約され

ない暮らしを楽しもうと散歩に出たところ、街中は人影がまばらで、ウォーキングの人も無言で通り過ぎる。幼い頃、商店街の人情に触れて育った西本さんは、街とのつながりが希薄なこの様子に淋しさを感じた。

そこで、これまでの経験を生かし、消費者目線で商店街を元気にする構想をまとめ、iSB

商店街は近くて遠い存在?

和田商店街周辺のマンションの新住民は、共働きの子育て世代が多く、慌ただしい日常のため、毎日の買いものは帰宅途中のデパートやコンビニ、スーパーで済ませたり、宅配に頼るという状況にあった。よって地元商店街の利用は少なく、個人商店の入りにくさや会話に不慣

公共未来塾[※]の社会企業育成ビジネスプランコンペに応募。採択されて2010年より、和田商店街をフィールドとする「親子で街デビュープロジェクト」に取り組んでいる。
※内閣府「地域社会雇用創造事業」の一環として社会的企業育成支援をコンソーシアムで行うビジネススクール



はじめましてのワークショップ(左)。ツアー参加後も、「お子さん大きくなったね!」と声をかけられるのがうれしい



プロが語る知恵と技。説明する店主さんもイキイキと



若手力士の餅つき大会あり、記念撮影ありの「どすこいまつり&マルシェ」



銭湯を会場にマイブランを発表



地域新聞「Wadatch」を発行。「わだっち」は、和太+Watch(見る)の造語



美大生ならではの着眼点で、商店街を元気にするアイデアをまとめ、街角でグループごとに発表

新鮮で驚きの体験

若い消費者が商店街を知り利用するためのアイデアを出し合うミーティングに始まり、次いで商店街ツアーを行った。これまで、じつく

れということもあり、商店街は近くて遠い存在となっていた。
しかし、「仕事を離れ、家にいる時間が長くなった子育て中のママなら、地域の商店街とつながるきっかけをつくれるかもしれない」と考えた西本さん。若い親子にとって、安心して子育てができる地域環境は望むところだろうし、バリバリと仕事をしてきたママたちのスキルも生かせるだろう。ここから、子連れの親子が商店街デビューを果たし、商店街を応援していくストーリーが見えてくる。

り商店街を訪れたことのないママたちにとって、扱う商品や店へのこだわりを熱く語る店主の姿は、商店街を理解するいい出会いとなった。普段、魚は切り身、食材は素材でなく加工品のお惣菜利用がほとんどというママたちにとって、魚のさばき方や、お米の食べ比べなどは、新鮮で驚きの体験だった。

ワークショップを通じて商店街の魅力と奥深さを知った後、ママたちの商店街応援企画が具現化。プロ記者による文章講座を経て、人柄が浮かび上がる店主インタビュー、地域新聞『Wadatch(わだっち)』の発行へとつながっていく。また、消費者と商店街の協働事業としては、商店街のホームページやマップ製作、消費者の声を反映した商品づくりやサービスの開発、商店街ツアーガイドの養成などへと発展。

商店街利用は1・3倍に増加

これらの活動は、いずれも、仕事で培ってきたママたちのスキル(企画・取材・記事・編集・デザイン・ホームページ製作など)を生かしたもので、ママたちの本領発揮の場となった。

同プロジェクトは、子育て中のママたちを対象としており、それぞれの事情にに応じ数年でメンバーが代わるため、コンセプトを継承しつつ円滑な運営を心がけている。商店街とのコラボによる企画は年々充実し、「時短!常備菜講座」「てづくりベビーソープ」「親子で銭湯デビュー」など、多彩な体験メニューは大好評。親子の商店街利用は1・3倍に増え、支援活動の担い手も増加。すでに、近くの美術大学との連携も始まっており、今後の展開が楽しみだ。